

# 児童質問紙から見えてくる並木っ子児童像

平成28年4月19日実施

## 生活習慣

- ほとんどの児童が朝食をほぼ毎日食べている。これは、全国・県の平均を上回っている。さらに、「全く食べていない」児童はいなかった。また、毎日ほぼ同じくらいの時刻に寝ている児童の割合は、全国・県平均を約5ポイント上回っている。規則正しい生活習慣を身につけている児童が多いことがわかる。
- 家の手伝いをよくしている児童の割合は、全国平均を約10ポイント上回っている。
- 普段、1日3時間以上テレビやDVD等を見ている児童の割合は、全国平均を約5ポイント下回っている。一方、1日3時間以上テレビゲームをしている児童の割合は、全国平均を約4ポイント上回っている。しかし、「1時間より少ない」「全くしない」児童が全体の半分以上（52.2%）であり、全国平均を約7ポイント上回っている。全体としては、長時間テレビを見たり、テレビゲームをしたりしている児童は、少ない傾向にある。
- 普段、1日3時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている児童の割合は、全国・県の平均を約4ポイント上回っている。本校の昨年度の割合と比較すると、2倍以上になっている。今後も増加していくことが予想される。

## 家庭学習の習慣

- 平日に学校以外で1時間以上勉強している児童の割合は、全国平均を約1.5ポイント下回っている。半分以上の児童は、1日の勉強時間が1時間以下である。
- 家で、学校の宿題をしているかの質問に対して、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童の割合は、全国平均を約7ポイント下回っている。「全くしていない」と回答した児童の割合は、全国の3倍である。
- 家で学校の授業の予習をしているかの質問に対して、「全くしていない」と回答した児童の割合が全国平均を約8ポイント上回っている。
- 家で学校の授業の復習をしているかの質問に対しては、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童の割合が全国平均を約1.6ポイント下回っている。また、全く復習をしていない児童の割合は、全国平均を約1.2ポイント上回っている。

前の質問の回答と併せて考えると、本校の児童は全国の児童と比べ、家庭で勉強している時間が、とても少ないことがわかる。

## **コミュニケーション力** ※我孫子市の「目指す子ども像」を実現するための3つの力の1つ

- **学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思うか**の質問に対し、「難しいと思わない」「どちらかといえば難しいとは思わない」と回答した児童の割合は、全国・県の平均を約5ポイント上回っている。
- **友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができるか**の質問に対し、「聞くことができる」「どちらかといえば、聞くことができる」と回答した児童の割合は、全国・県の平均を約4ポイント下回っている。「どちらかといえば聞くことができない」児童の割合は、全国・県の平均の約2倍である。自分の考えを説明することには積極的であるが、人の話を聞くことは、やや苦手な実態がうかがえる。
- **学級みんなで協力して何かやり遂げ、うれしかったことがある**と回答した児童の割合は、全国平均を約6ポイント下回っている。学級の中で、友だちと関わっていく機会を意図的に仕組んでいく必要がある。

## **チャレンジ力** ※我孫子市の「目指す子ども像」を実現するための3つの力の1つ

- **ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか**  
**難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか**  
上の質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合は、それぞれ全国・県の平均を約5ポイント下回っている。  
特に最後までやり遂げて、「うれしかったことがない」「どちらかといえばない」と回答した児童の割合は、全国・県の平均のほぼ2倍である。困難に立ち向かったり、挑戦したりすることが苦手な実態がうかがえる。
- **「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる**と回答した児童の割合は、全国・県の平均を約15ポイント上回っている。児童につけたい力を見据えつつ、全校で計画的に「総合的な学習」に取り組んできた成果といえる。  
**「総合的な学習の時間」の勉強が好き**、**学習したことが役に立つと思う**と回答した児童の割合も全国・県の平均をそれぞれ約15ポイント、約5ポイントずつ上回っている。

## **豊かな心** ※我孫子市の「目指す子ども像」を実現するための3つの力の1つ

- **自分には、よいところがあると思いますか**の質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合は、全国・県の平均とほぼ同じである。7割以上の児童が高い自己肯定感を持っている。  
また、先生が自分のよいところを認めてくれていると感じている児童の割合が全国・県の平均を約5ポイント上回っている。一方で、認めてもらえていないと感じている児童の割合は、全国・県の平均の2倍近い。
- **いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う**と回答した児童の割合は、全国・県の平均を約10ポイント下回っている。「どちらかといえばいけない」と思っている児

童を合わせると全国・県平均とほぼ同じになるが、「いじめは、どんな理由があっても絶対にいけないことだ」という意識がやや低いことがわかる。

- **人が困っているときは、進んで助けているか**の質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合は、全国・県の平均を約10ポイント下回っている。人との関わりに消極的な様子うかがえる。

## 社会への関心

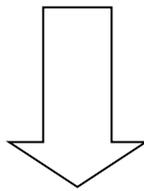
- **新聞を読んでいるか**の質問に対し、「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」と回答した児童の割合は、全国平均を約6ポイント上回り、昨年度と比べ大きく増加した。また、**テレビやインターネットのニュースを見るか**の質問に対し、「よく見る」「時々見る」と回答した児童の割合は、全国平均を約4ポイント上回っている。昨年度の結果を受け、社会に目を向けさせるように家庭や学校が意図的な投げかけをしてきた成果と言える。
- **地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか**の質問に対し、「ある」「どちらかといえばある」と回答した児童の割合は、全国・県の平均を約5ポイント上回っている。地域の行事に参加している児童も多く、地域に目を向けている児童が増えていることがわかる。

## 学習への関心

- **授業の中でわからないことがあったらどうするか**の質問に対し、「その場で先生に尋ねる」「授業が終わってから先生に尋ねる」と回答した児童の割合は、全国平均を約7ポイント上回っている。また、わからないことは、「自分で調べる」と回答した児童の割合が高かった。
- **国語の勉強が好きか**という質問に対し、「好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童の割合は、全国平均を約5ポイント上回っている。
- **算数の勉強が好きか**という質問に対し、「好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童の割合は、全国平均を約7ポイント下回っている。しかし、算数の勉強は大切であると考えている児童の割合は高い。
- **算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思うか**の質問に対し、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童の割合は、全国の平均とほぼ同じで、昨年度と比べ、大きく増加した。全校で算数の授業の導入の工夫に取り組んできた成果があらわれ、児童の学習意欲が高まったと考えられる。
- **算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか**の質問に対し、「どちらかといえば考えない」「考えない」と回答した児童の割合は、全国の平均を約4ポイント上回っている。昨年度よりは減少しているが、さらに学習と日常生活を結びつける授業の工夫が必要である。
- **算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか**の質問に対し、「どちらかといえば思わない」「思わない」と回答した児童の割合は、全国の平均を約7ポイント上回っている。

### <質問紙からの考察>

- 温かな家庭で、安心感を持って生活している。規則正しい生活習慣を身につけている児童が多い。
  - 自分のよいとことを周囲に認められていると感じている児童が多く、比較的、自己肯定感が高い。
  - 自分の考えを進んで発表したり、わからないことはすぐに質問したりできる児童が多い。
  - 「総合的な学習の時間」で自ら課題を見つけたり、調べたり、発表したりすることができる児童が増えている。また、普段から社会の情勢に目を向けたり、わからないことがあった時に、自分で調べたりする児童が増えている。
- 
- 学校での学習には意欲的に取り組むが、家庭学習に進んで取り組む児童が少ない。宿題など、必ずやらなければならないことにも取り組めない児童がいる。
  - 学習していることが机上だけのものになっており、日常生活とうまく結びつけて活用することができていない。
  - 人の話を最後まで聞くことが苦手な児童が多い。
  - 人と積極的に関わることが苦手な児童がやや多い。
  - 難しいことに挑戦したり、最後までやり遂げたりした経験を持つ児童が少ない。



### <今後の取り組み>

- ① 学級活動、授業の中に対話的な活動を多く取り入れるようにする。自分の考えを説明したり、友だちの話に耳を傾けたりする活動を意図的に仕組んでいく。そういった活動を通して、友だちのよさに気づいたり、相手を尊重したりできる児童を育てていきたい。
- ② 授業づくりでは、課題を日常生活と結びつける工夫、既習を活かした興味をひく導入の工夫などに引き続き、取り組んでいきたい。
- ③ 学習や係活動、委員会活動、行事、部活動等の取り組みを通し、何かをやり遂げた達成感を味わわせたい。
- ④ 保護者への協力もお願いしながら、全校的な取り組みで家庭学習の習慣を身につけさせていきたい。